



# 小樽市地域雇用創造計画を策定しました



小樽市では、地域雇用開発促進法（昭和62年法律第23号）第6条第1項の規定に基づき、小樽市地域雇用創造計画を策定し、平成30年3月28日に厚生労働大臣の同意をいただきました。

## ◎計画の目的

今回の計画では、人口減少や経済規模縮小といった地域課題に取り組むため、小樽市総合戦略に位置付けられた産業振興施策などと連携し、「観光」と「食」を重点分野として位置付け、地域の資源を活用して経済を活性化し、良質で安定した雇用の創出を目指します（詳しくは市ホームページをご覧ください）。

## ◎これからの取り組み

この計画を着実に進めるため、産学官で構成する小樽地域雇用創造協議会が、国から実践型地域雇用創造事業を受託し、平成30年度から32年度までの3年間、企業の生産性向上や労働者のスキルアップに資するセミナー、地元企業と地域求職者のマッチング、観光や食に関する商品開発などに取り組みます（右の囲みを参照）。

## ◎参加団体など

小樽地域雇用創造協議会は、小樽市のほか、後志総合振興局、小樽商工会議所、小樽物産協会、小樽観光協会、北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部、小樽商科大学が参画し、平成30年1月26日に設立され、4月からは産業会館に事務局が開設されています。

同協議会では、今後、各種セミナーや合同企業説明会を開催しますが、開催日時や内容等については、協議会ホームページや新聞折り込みなどにより、お知らせしていきます。

☎️詳細 小樽地域雇用創造協議会事務局 ☎️①7881、☎️②7882、または商業労政課 ☎️③4111内線262、☎️④7432

取り組む予定の項目

**雇用拡大メニュー（事業主向け）**

- ・経営力・財務力向上や持続的企業経営に資するセミナー
- ・食や観光の商品開発等に資するセミナー
- ・創業フォローアップセミナー
- ・実践メニュー成果物公開セミナー

**人材育成メニュー（求職者向け）**

- ・創業支援セミナー
- ・食や観光関連産業で求められる人材育成講座

**就職促進メニュー（事業主・求職者向け）**

- ・就職マッチング事業（市内・市外）
- ・就職情報発信事業

**雇用創出実践メニュー**

- ・地域の「飲」と「食」を生かした観光事業
- ・地域特性に応じた商品開発・販路拡大事業

## 熱中症は予防が大切です！

☎️詳細 保健所健康増進課 ☎️⑤3110、☎️⑥1469

これからの季節、気温が上昇するとともに熱中症の危険性があります。夏本番を前に今から熱中症対策のため、扇風機やエアコン、遮光カーテン、すだれなどで室温調節ができるよう準備をしましょう。

また、ウォーキングなどの適度な運動で日頃から汗をかく習慣を作り、バランスの良い食事と十分な睡眠で体調を整えましょう。



### ☼こんなときは熱中症に注意！

暑い環境にいて、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。熱中症は条件次第で、どこでも、誰でもかかる危険性があります。

急に暑くなった日などは、体が暑さに慣れていないため、特に注意が必要です。また、熱中症は、気温がそれほど高くない日でも「湿度が高い」、「風が弱い」、「体調」などが影響して起こります。

### ☼熱中症の症状

症状が出たら、涼しい場所に移動し、安静にして、水分補給や体を冷やしましょう。また、自分で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに医療機関へ相談、または救急車を呼びましょう。

- ・めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、大量の発汗
  - ・頭痛、吐き気、嘔吐（おうと）、倦怠（けんたい）感、虚脱感、いつもと様子が違う
- 【重症になると】**

返事がうまくできない、意識がなくなる、けいれん、体が熱い



### ☼特に注意が必要な方

高齢者は温度に対する感覚が弱くなるため、室内でも熱中症になることがあります。乳幼児は体温調節機能が十分に発達していないため熱中症にかかりやすく、地面の照り返しの熱を強く受けるため注意が必要です。

また、久しぶりに暑い環境で活動したときには、体温調節がうまくいかないため、十分な予防対策が必要です。

### ☼熱中症予防のために

#### 外出時

天気の良い日は日中の外出をできるだけ控える、日傘を差す、帽子を着用する、日陰を利用する、小まめに休憩を取る、飲み物を持ち歩くなどして、暑さに備えましょう。

#### 衣服

通気性や即乾性が高い素材で、ゆったりした風通しの良い衣服を選びましょう。

#### 日常生活

小まめに水分、塩分、経口補水液（水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの）などを補給しましょう。

※スポーツ飲料には砂糖が含まれているため、飲み過ぎには注意が必要です。